

コンコンとドアを

ノックして欲しいと願ひ

仲間と体験談をつづりました



仲間の皆さんとの出会い

M

息子の非行は中学生になったころから始まりました。夜間の外出や喫煙、飲酒。何とかやめさせようとしたが、かないませんでした。学校に呼び出されることもしょっちゅうで、万引きや窃盗で捕まったこともありました。高校に入ってからも息子の非行は収まらず、問題が次々に起こりました。

私と主人では息子に対する考え方が違いました。話し合っても、そのたびに険悪な雰囲気になりました。次第に息子のことを話し合うことは無くなり、私はやり場に困った不安な気持ちで主人に対する苛立ちや怒りに変えるようになりました。夫婦間にも、息子との間にもほとんど会話はなくなり、家には不穏な空気が流れるようになりました。そんな状況は変わらないまま、時は過ぎ、高校を卒業すると息子は家を出て行きました。

それからほんの数ヶ月後、息子の薬物使用を知りました。通報する勇氣はありませんでした。でも放っておけば息子がどうにかなくなってしまっても思いました。事件に巻き込まれるかも知れないし、事件を起こしてしまうかも知れない。何とかしなければならぬと、ある回復施設を訪ね、そこから関西薬物依存症家族の会、自助グループに辿り着きました。

仲間の皆さんが温かく迎えてくださいました。私は、ため込んでいた思いのたけを話すことができました。皆さんが辛い経験を乗り越えてこられたことを知りました。

家族を大切に想うなら、これまでの私のひとりよがりな考え方や行動を変える必要があることに気付かせてもらいました。ひとりでは、家族だけでは到底、無理なことでした。

どこで何をしているかわからなくなっていた息子から一年ぶりに連絡を受けました。少しの間、家に帰らせてほしいという連絡でした。

息子に嫌われたくない。目の届くところに息子がいれば、不安を感じずにいられる。また、息子の起こす問題に巻き込まれる大変な日々を過ごすことになるかも知れないとわかっていても、以前の私なら息子と一緒に暮らすことを受け入れていたでしょう。

でも、今、私は仲間の皆さんと一緒にいます。ひとりで悩むのではなく、たくさんの意見を聞きました。私には、自分で困難を乗り越えていく息子の力を信じる、という選択肢があることを知りました。

私は息子の頼みを断りました。

その後、息子がどこで何をしているのか、わからないのは変わらぬまま。依然として、不安は残っています。でも、私にはそれさえも受け止めてくれる、頼れる仲間の皆さんがいます。支えられている安心感に感謝しながら、日々を過ごしています。

用語の説明

ハイヤーパワー

自分自身を超えた、自分よりも偉大だと認められる「力」。
薬物依存に無力であるからこそ、自分を超えた大きな力に自分をゆだねている。
その力についてどう解釈するかはまったく各人に自由に任されている。

スポンサー／スポンサーシップ

回復の十二ステッププログラムを実践するにあたり、メンバーはより経験のあるメンバーに相談し、助言や提案を示してもらう。その助言者をスポンサー、その関わりをスポンサーシップと呼んでいる。

回復の十二ステッププログラム

回復のプログラムとして提案されている十二のステップは、スピリチュアル（霊的）な特徴を持つ生きかたの原理。

フェローシップ

本来は仲間の集合体を指すが、ミーティングを離れた仲間同士の交流の意味で使われることが多い。